

<祈りのために>

「彼らの上にわたしが王として君臨することを退けているのだ」 サムエル記上8章7節  
サムエル記上8章1-22節。主の祈りの2番目の願い、『神さまご自身の王国を来たらせてください』。願い求めよとわざわざ主イエスから命じられている理由は、神の民とされた先祖と私たちが「嫌だ嫌だ」とそれを拒みつつけるからだ。神の御名を誉めたたえるよりは、他の誰彼や自分自身を誉めたりけなしたりしつづけた。神が王様である国よりは、人間の誰彼を立てて、私たち人間による、人間のための、人間のものである国に住むほうがいい。神の御心が実現するより、自分たちが願ったり計画したり望んだりすることが、私の心こそがこの地上で成し遂げられるほうがいいと。その発端は、サムエル記上8章。「嫌だ嫌だ、神さまが王様だなんて。ヨソの国では生身の人間を王様として立て、神の国などではなく、人間たちの国を建てている。それで商売繁盛し、羽振り良くやっているらしいじゃないか。神を王様とするより、人間の誰彼を王様やボスに任命して、ヨソの国のようになりたい」。神さまは、つつい溜息をついただろう。けれど、その願いを聞き入れた。目に見えない神を見えないままに信じることは難しい。耳に届きにくい神の御声を、聞き取りにくいままに従って生きることは骨が折れた。目の前にある生身の人間の指導者の顔を見て、その人間の声を聞いて、それで神さまに従うことの代用品としたい。そのほうが手軽で、簡単。主なる神は仰った；「彼らの上にわたしが王として君臨することを退けているのだ。彼らをエジプトから導き上った日から今日に至るまで、彼らのすることといえば、わたしを捨てて他の神々に仕えることだった」(7-8節)。エジプトから導き上った日から。つまり、モーセ時代からずっとそうであり続けた。出エジプト記32章の金の子牛事件の本質もここにある。けれど人々は聞き従おうとせず、言い張った。「いいえ。我々にはどうしても王が必要なのです。我々もまた、他のすべての国民と同じようになる」(17-20節参照)。なんということだろう。これが、イスラエル王国の始まりである。最初には人間の王はいなかったし、そんなものは必要なかった。なぜなら、神さまこそが彼らのための王様だったから。「それは嫌だ」と人々は神が王であることを毛嫌いして、退けた。主に従うことを退けた彼らは、それぞれ自分の腹の思いを神とした(ピリピ手紙3:18-19)。自分は賢いとうぬぼれ、我を張り、それぞれの主張に固執しつづけた。神さまに聞き従うことを忘れてしまった人々は、統計データや企業戦略に従い、次々と立てられた人間の指導者たちにもっぱら聞き従った。人間の王様や小さなボスたちが心を迷わせ、神に背くとき、人々もいっしょになって心をさまよわせ、いっしょになって神様に背いた。イスラエルの王国時代は紀元前1020年から587年までの433年間続き、43人の王たちが次々に立てられ、やがてとうとう王国は滅び去った。旧約聖書の歴史は、神を王様とすることに失敗しつづけた、長い長い迷走の歴史である。彼らのふり見て我がふり直せ。もしかして、これこそが今日の私たちの死活問題なのかも知れない。

〈祈り〉主よ、あなたへの信頼と従順とをお与えください。私たちの目を開いてください。

金田聖治(鎌倉栄光教会牧師、東京中会靖国神社問題特別委員会委員)

## 「中国の教会との交わりを望みみて」 (1)

渡辺裕子 (宇都宮松原教会会員)

3年前の夏、ちょうど民主党政権誕生で日本中が沸き立っていた総選挙の直後、仕事で中国杭州(浙江省)に出かけた時のことである。

杭州は、「上有天堂、下有蘇杭(上には天国が、地上には蘇州と杭州がある)」といわれている通り、中国の中でも最も美しい都市の一つで、マルコ・ポーロが立ち寄りその美しさを絶賛したことでよく知られている。ここには、かつてアメリカ南部長老教会が設立した之江大学 (Hangchow University) というミッションスクール(中国語では教会大学)があった。1949年の「解放」以前、中国には多数の「教会大学」があったが、1950年に入って間もなくそれらはすべて外国ミッションから切り離され、国立大学に再編された。之江大学も同じように再編の対象となり、現在では国立浙江大学の一部となっている。旅の目的は、この大学を訪ね資料調査を行うことであった。1920年代半ば、民国政府がミッションスクールにおける宗教教育を必修から外すよう命じた時、最後まで抵抗し続けたのがこの大学である。なぜそれができたのか、まずは現地を訪ねてみようと思ったのだ。

ミッション関連の文書は大半がアメリカにあるので、予想通り資料的にはほとんど成果はなかったが、かつての美しいキャンパスがほぼ手つかずのまま残されていて(全国重点文物保护单位に指定されている)、教室棟も研究棟も古い建物が利用されていることは感動的だった。高台に建つキャンパスの眼下には「銭塘江」がゆったりと流れ、その雄大な景色に、校地を探していた宣教師がいつぱんに気に入ってこの土地を買い求めたのもっともだと思わされた。余談になるが、1922年から28年まで学長を務めたロート・フィッチは、1937年の南京虐殺の際、南京安全区国際安全委員会委員として奔走したジョージ・フィッチの兄である。

杭州に行っはじめて、同長老教会宣教師だったスチュアート (John Leighton Stuart、中国名司徒雷登、1876-1962) の生家が、記念館として公開されていることを知った。彼は、やはりアメリカ南部長老教会宣教師の息子としてこの地に生まれ、自身も1904年から中国伝道に献身し、のちに燕京大学学長、さらに中国大使を務めた人物である。どうしても行ってみたいくて、滞在最終日にはそこにも足をのぼしてみた。開館と同時ぐらいに中に入ると、受付のおばさんが「ずいぶん早いね。旅行しているの?」と聞く。「ええ、日本から来たんですけど、中国の宣教師のこと調べていて…」という、すかさず「日本から?日本からの?あら珍しい。じゃああなた知ってるわよね、選挙の結果。新しい総理大臣になる人なんだっけ、そうそう Jiushan ジウシャン (鳩山) のスピーチに感激してたよ。あの人、もう靖国神社に行かないって言ったでしょう?とてもうれしかった。これで中国と日本との関係が少しはましになるんじゃないか。日中友好、日中友好!」と一気にまくし立てた。

こぢんまりとしたよく整えられている宣教師館を見て回りながら、おばさんの言葉を反芻する。鳩山元首相が侵略戦争の罪をどこまで認識していたのか、単なる外交的配慮による決断だったのかはともかく、彼女はこの決断を外交辞令とは受け止めていないようだった。侵略戦争を肯定する施設だから鳩山氏は靖国には行かないのだと理解していたように思えた。そういえば2006年に武漢に行ったときは、乗ったタクシーの運転手にいきなり「小泉の靖国参拝どう思う?中国を侵略した張本人が祀られているんだろう?」と聞かれたことも思い出した。あるいは、わたしの授業を受講していた長春出身の留学生が、かつて日本語学校在籍中、合格祈願に靖国神社に連れて行かれたと言っていたことも。彼女は、なんて無神経なと思ったが、同時に戦争で戦って死んだ人を祀っている神社に合格祈願に行っ、はたして効き目があるのかと不思議だったそう。 (続)

## <ヤスクニ・ニュース>

「許すな！憲法改悪・市民連絡会」は、下記の声明文を表明して、多くの市民の賛同を求めている。ここにその概要を紹介する。

### 「領土問題」の悪循環を止めよう！ …日本の市民のアピール…

「領土」問題は、双方とも近代における日本のアジア侵略の「歴史」を背景にしている。日本の竹島（独島）編入は、日露戦争中の1905年、韓国植民地化の中で外交権をも奪っていた。韓国民にとって、そこは侵略と植民地支配の起点・象徴である。尖閣諸島（「釣魚島」中国名・「釣魚台」台湾名）も日清戦争後の1895年に、日本領土に組入れられた。当時の韓国、中国の外交的主張が不可能であった中で日本の領有であった。

今年の日中国交正常化40年。友好を紛争に転じた原因は、東京都の尖閣購入宣言と日本政府の国有化にある。中国にとっては、これまでの領土問題を「棚上げする」という暗黙の「合意」に違反した「挑発」として映った。領土問題はどの国のナショナリズムをも揺り動かす。国内矛盾のはげ口として権力者によって利用され、エスカレートしてコントロール不能な事態に発展する危険性がある。この問題は、「協議」「対話」以外にない。日本は「領土問題は存在しない」との虚構の認識を改めること。「領土問題」「領土紛争」が存在していることを認めなければ協議、交渉に入ることもできない。「固有の領土」という概念は本来あり得ない。

尖閣諸島とその周辺海域は、古来台湾と沖縄など周辺漁民たちが漁をし、交流してきた生活の場であり生産の海である。「領土」周辺の資源については、共同開発、共同利用以外にはありえない。資源を分かち合い、利益を共有するための対話、協議をして、共同で開発し管理し分配することだ。この問題にかかわる基本的なルール、行動規範を両者で作るべきである。私たちは、政府間だけでなく日・中・韓・沖・台の民間レベルで、誠意と信義を重んじる未来志向の対話の仕組みを作ることを提案する。 12年9月28日

…中央日報日本語版は、9月29日、日本の知識人と市民団体約1300人が署名したこの声明の中には、大江健三郎氏や本島等元長崎市長、小田川興早稲田大教授、平和運動家の池田香代子氏らの名前が並んでいると報告している。

## 天皇訪韓発言と韓国ニュース

18日に発売された週刊誌「女性自身」2555号で、天皇陛下（ママ）が訪韓、韓国への謝罪へ言及していたことが報じられたが、韓国でも複数メディアが「女性自身」の記事を紹介し、大きな反響を呼んでいる。「女性自身」記事では、天皇陛下（ママ）が御所で、「私たちが、かの地を訪れることができるようになればよいのですが。これからも日本と韓国が友好な関係を保てるよう願っています……」「私は両国の友好のためなら現地で謝罪を述べることも、やぶさかではない」と、発言したとしている。一方で、李明博大統領の発言や日韓関係の現状から「訪韓は10年どころか100年は遠のいた」という外務省職員の言葉も伝え、「天皇と美智子さまの日韓友好を願う魂の叫びを韓国国民には知ってもらいたい」と記事を結んだ。21日、TV番組「KBS ニュース」では、アナウンサーが「女性自身」の記事を紹介した後、「君主がこのように考えておられるのに、臣下を自任する日本の政治家たちが横に反れている。君主に対する不忠行為ではないでしょうか?」とコメントした。

（韓フルタイム 9月22日）

## 旭日旗はナチスの標識に匹敵…万人の憎悪の対象…

北朝鮮の民主朝鮮は21日、「どうして旭日昇天旗を振り回すのか」と題し、日本の旭日旗について言及した。「人類に計り知れない不幸と苦痛をもたらした第二次世界大戦のいろいろな事実が人々の記憶の中から消えて行っているなか、その後生まれた新しい世代は旭日旗の認識がなく、その旗をどのように見てきたのか、また誰が何の目的で使用してきたかをよく知らずにいる。旭日旗は第二次世界大戦期、アジア大陸への侵略戦争に狂奔していた日帝が海軍専用旗として使用していた。日帝は日の丸とこの旗を翻し、他の国と民族の侵略と略奪、殺人や放火などの前代未聞の戦争犯罪を敢行した。そのため、旭日旗は日の丸とともに日本の軍国主義の象徴であり、ドイツのナチスの標識に匹敵するとして、憎悪の対象にされてきた。

この軍国主義の象徴を現代においても使用しており、万人の視線が集まる国際スポーツ競技場でも使用している。先日のロンドンオリンピックでは、日本選手たちは旭日旗をモチーフにしたユニフォームを着て出場した。また、日本サッカー協会は、日本で開催された20歳未満の女子ワールドカップのトーナメントで、観客に旭日旗の所持を許可した。これらは軍国主義の復活を意味し、日本社会が高度に右翼化反動化されたことを実証している。歴史と時代の流れに逆行する者たちの運命は滅亡と破滅につながることを注意深く知るべきである」と主張した。(北朝鮮報道(サーチナ)から編集・担当:李信恵・田口宏 9月21日)

## 普天間基地にオスプレイ配備

沖縄県議会の二度の決議、沖縄の各市町村議会の決議、県民大会では10万3千人が出席し、沖縄県知事が反対を表明し、県民総意で反対をしているオスプレイ配備を、日米両政府は、沖縄市民の反対の怒号の中で何事もなかったかのようにして飛来させて来た。「沖縄には自治権がないのか。この島は沖縄住民の島ではないのか。沖縄に住んでいる者は人間ではないのか。いつまで沖縄は差別された奴隷であり続けるのか」という声を毎日聞く。

垂直離着陸輸送機MV22オスプレイ(ミサゴ)はよく事故を起こし、34人が亡くなっている。飛行ルートは米軍住宅地や米軍施設地区の上を飛ばず、沖縄の人口密集地区と海上を飛行するようだ。私たちの頭の上を飛ぶたびに、恐怖と緊張と不安におびえることになる。これが日本全域にオスプレイが飛び回るといふ。人権蹂躪だと叫ぶ沖縄県民は、逮捕を覚悟して基地に入れさせないようにあらゆる運動をしている。島田牧師は反対運動の指導者として民衆の先頭に立ち、私も座り込みの中に加わっている。

沖縄は植民地である。日本もアメリカの植民地である。本土にはそれが見えない。沖縄ではよく見える。日本はポツダム宣言を受諾して無条件降伏の証印を押して、「米国の要求に全て従う」ことを約束した。米国の要求は、「アメリカの望むだけの軍隊を望む場所に、望む期間だけ駐留する権利を獲得すること」にあった。昭和天皇は、三種の神器を確保して天皇の国体を護持するために、アメリカの要求を受け入れて、沖縄の土地を基地として提供した。これが日米安保条約の基礎となっている。当たり前のようにして日米両政府がオスプレイの配置をするのは、ここにあるとみる。

(記 川越弘 編集人・沖縄伝道所牧師)

693号 ヤスクニ通信 2012年10月14日  
発行 日本キリスト教会靖国神社問題特委員会  
発行人 加藤正勝 編集人 川越弘  
印刷・発行 栗田英昭 (多摩ニュータウン  
永山伝道所) 〒206-0025 東京都多摩市永山  
1-16-11 TEL&FAX 042-376-9514